

令和5年第1回室蘭市国民健康保険事業の運営に関する協議会 会議録

1. 開催日時 令和5年2月16日(木)
開会 18時00分 閉会 18時58分
2. 場 所 室蘭市役所3階 議会第1会議室
3. 出席委員 山中委員、野橋委員、笹山委員、木村委員、
小家委員、上田委員、福永委員、日沼委員、山田委員
4. 欠席委員 柴田委員、國本委員
5. 市側出席者 小泉副市長、事務局（佐野生活環境部長、京納保険年金課長、
本間保険年金課主幹、岩間保険年金課主幹、笹口総務係主任、
山口総務係主任）
6. 傍聴者 1名
7. 会議次第
 1. 副市長あいさつ
 2. 議題
 - (1) 報告
 - ① 令和4年度 室蘭市国民健康保険特別会計決算見込
 - ② 令和5年度 室蘭市国民健康保険特別会計予算案
 - ③ 室蘭市国民健康保険データヘルス計画 令和3年度実施状況報告
 - (2) 諮問
 - ① 出産育児一時金の支給額の改定
 - ② 保険料の賦課限度額の改定
 - ③ 低所得者に対する保険料軽減措置の所得判定基準の改正

1. 開会
2. 副市長挨拶
3. 議事概要

- (1) 報告

- ① 令和4年度室蘭市国民健康保険特別会計決算見込

[事務局より資料に基づき説明]

【A委員】

収支総括において、前期高齢者交付金返還が次年度で終わるとあり、翌々年度からは返還がなくなるため、財政的に余裕ができると考えられるが、その分で保険料率を下げたり人間ドックの料金を下げるといったサービス向上等に転換することはできないのか。

【事務局】

納付金のもととなる保険料ですが、納付金の算定にあたりましては、道の方で令和12年度に向けて保険料率統一に向けて目指している最中でございます。統一への段階として令和6年まで納付金の算定については道全体の医療費水準からの差のうち半分を納付金算定に反映させているが令和6年以降は納付金算定には反映させない方向でございます。

本市は医療費の高い市であるので納付金が令和6年以降は下がる方向ですが、それに並行して室蘭市の各歳入についても例えば10入ってくるものが8になり、残りの2が道の共通財源といったこともあるので、その分、納付金が上がる方向になる予定でございます。令和12年に向けて増減の幅があるのでその辺を見極めながら現時点での財政的余裕を使って料率をどうするか、というのは難しいところであります。

【A委員】

収支の見込がたたないの少し余裕が出た分を支出に使うことは難しいということで承知した。

- ② 令和5年度室蘭市国民健康保険特別会計予算案

[事務局より資料に基づき説明]

【A委員】

予算案のより詳細な資料の添付を希望する。

市のホームページでも予算資料が後日公開されており、すでに資料ができていいるなら協議会の場で確認したい。

【事務局】

事務局で作成している総括表であれば参考資料として提供は可能。

【A委員】

後日お渡しいただければと思う。

③ 室蘭市国民健康保険データヘルス計画 令和3年度実施状況報告

[事務局より資料に基づき説明]

【議長】

資料にあるグラフについて確認したい。ここにある目標値というのは国の目標値という理解でよいか。

【事務局】

この途中経過の数字はデータヘルス計画策定するにあたって実態に見合った目標値を設定しており、本市で設定した目標値でございます。

国の目標値とは特定健診および特定保健指導共に60%を目指してくださいというものでございます。

【A委員】

人間ドックについて、室蘭・伊達・登別のホームページを見比べると、料金が少しずつ違う。室蘭市の国保ドックは室蘭・登別総合健診センターでのバリウム検査を含めて5,000円だが、伊達市は同等のものが伊達赤十字病院で5,000円、登別市では室蘭市と同じ健診センターで同等の検査が2,500円。違いはなぜなのか。

【事務局】

人間ドックという話がありましたが法で実施を求めている「特定健診」については自己負担無料で市内の28医療機関で実施しており、1件当た

り 9,000 円程度の費用総額ですが 2/3 が国・道の交付金、残りを保険料で賄っています。

この特定健診に検査項目を追加した国保ドックを自己負担 5,000 円で行っております。国保ドックは特定健診費用の約 4.3 倍の費用総額で、財源は特定健診分の交付金と自己負担以外はすべて保険料で賄っております。

国保ドックは、受診者の人数とそれに対する保険料負担が大きいことからバランスを見ながら自己負担を 5,000 円と設定しているところでございます。

【A 委員】

国保ドックは、今は室蘭登別検診センターと現在中止中のみなと診療所の 2 つだけとのことだが、そのほかの医療機関にも担っていただくことはできないのか。

【事務局】

国保ドックは、健診センターと市立室蘭みなと診療所で受診できる形をとっており、蘭東、蘭西にそれぞれ配置されているので、現在のところ拠点を増やす検討は行っておりません。

特定健診、国保ドックのほかに脳ドックがあり、市内の 3 つの総合病院と 2 つの脳神経外科病院で受診でき、各種検診について広くまんべんなく市内の医療機関にご協力いただいているところです。

【A 委員】

室蘭市における人間ドックの需要は十分満たしているのか。

当組合でお願いしている市内の病院では、2 月の段階でドックの枠が他との取り合いになる。機会を逃すと 1 1 月や 1 2 月まで待たないといけないという状況。

市内には大きい病院もあり、他にも胃カメラができるところもあるので、そちらにも対象を広げればより多くの室蘭市民の需要を満たすことができるのではないかと思うがいかがか。

【事務局】

人間ドックの方は実績としては年々伸びる傾向にあります。

令和 3 年度の決算で申し上げますと 1,170 人にご利用いただいておりますが、現在まで申し込みに対して今年度中は申し込み分全て受け入れい

ただいていることから、2か所で十分問題なく運用できていると考えております。

【A委員】

ということは、受けたくても受けられなかったという話はないということか。

【事務局】

現時点ではしっかり対応いただいております。

ただ、ギリギリの3月末にきて「今すぐ受けたい」というのは受け入れ先が難しい場合もございますが、期間に余裕をもって申し込みいただければその年度に受けていただくことができっております。

【A委員】

都道府県単位化の関係で人間ドックの値段を簡単に下げるわけにはいかないのはわかるが、何とか努力して下げていただければ、受けてみようという人が出てくると思うし、市民の保健事業として前進すると思うので検討をお願いしたい。

【議長】

そもそも人間ドックと特定健診の違いを明確にした方がよいのでは。また、需要に対しては対処、把握等しているということか。

【事務局】

特定健診はメタボ健診と言われており、総費用9,000円で、それに加えて胃バリウム、眼圧検査等、精密な検査を追加して実施している国保ドックでございます。

国保ドックは総費用約39,000円のうち5,000円を自己負担いただいております。これが保険料で賄うものが大変多いことから自己負担を下げるとなると保険料に転嫁することになることから受診者と保険料のバランスを見ながら今の金額5,000円としているところです。

国保ドック受診者は年々増加傾向のためその分予算を見ており、今年のみなど診療所の受け入れが難しかったですが何とか健診センターの方で十分受け入れしていただいたところでございます。

【議長】

A委員が仰っている人間ドックは、民間の人間ドックのことか。
また、確認だが国保ドックと人間ドックは検査項目は全く一緒なのか。

【A委員】

その通り。

【事務局】

それぞれの医療機関等によって話し合いもありますし、単価も違うと思います。我々は健診センター等と一番ニーズが高い、かつ費用をおさえたい形での検査項目という事で設定してるところでございますので他の病院ではメニューも費用も違ってくると思います。

【A委員】

人間ドックというと、胃バリウムや胃カメラを受けることができるということで被保険者からは魅力感じる。

胃カメラを受けられる施設は限られており室蘭市で音頭を取って他の医療機関でも受け入れできるようにしていただきたい。

【議長】

この3年間コロナの影響で市内企業の倒産等があり、室蘭市内でも影響を受けた人数も多い状況。

企業がなくなった時に、大抵は企業から保険についての案内等があると思うが、国保含めて空白の人がいるのではないか。

保険の加入状況等、未加入の人の把握はできているのか。

【事務局】

社会保険が切れた人は窓口などにきていただければ遡及して保険証発行等しておりますし、税情報と連携する中で保険が切れた人については文書でご案内して無保険の場合は国保加入をお願いしているという状況でございます。

加入状況については税情報連携後の年度替わりの後で照会しております。

また、倒産する前の会社の経理の方から相談いただく事もありますのでその際に説明をしているところでございます。

【議長】

声を出してくる人はそれでよいが、病院にかかったが無保険の人や会社が潰れて無保険なのを知らなかったという人には対応できないのか。

中々捉えようがないかもしれませんが対処等考えていただきたい。

(2) 諮問

- ① 出産育児一時金の支給額の改定
- ② 保険料の賦課限度額の改定
- ③ 低所得者に対する保険料軽減措置の所得判定基準の改正

[事務局より資料に基づき説明]

【A委員】

軽減判定のラインについて、先般インフレが進む中で室蘭の判断でもって軽減率を調整することはできないか。

【事務局】

基本的には国で定めた基準に沿って行うという事になっている。

【A委員】

低所得者の生活が去年、今年で苦しくなっていく中で市として何かの支援が医療面でもあれば良いと思うのですが、無いということでしょうか。

【事務局】

独自でというところではないが、低所得者に対しては、国の基準に従ってお示しした保険料の軽減を行っている。

【議長】

医療費は国が定めた軽減措置の基準に沿ってやっているが、それ以外の手厚い助成制度は市で色々とやっている認識。

【事務局】

保険事業の充実という面については市独自の取り組みをしている。

【議長】

ただいま議題となっている案件について、原案どおり承認することとして答申してよろしいか。

[異議なしの声]

【議長】

異議なしとのことなので、原案どおり答申する。

4. 閉会